

表 10.5-31(7) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		コマドリ
重要な種の選定基準		I : - II : - III : - IV : 絶滅危惧Ⅱ類(VU)
重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		
分布・一般生態		・日本では北海道、本州、四国、九州、及び屋久島に夏鳥として分布する。亜高山帯の針葉樹林、低山帯上部の落葉広葉樹林、及び針広混広林で繁殖し、渡り期には低山帯にも現れる。山地の奥の急斜面や沢筋の樹林に多い。 ・コケが生えた地上をはね、虫を探し、地面から踏み切って急襲する。昆虫類、クモ類、ミミズなども食べ、またミヤマシグレなどの小果実も食べる。
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内 確認なし。
		対象事業実施区域外 春季調査時に1地点で1個体確認した。確認環境は樹林であった。
影響 予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

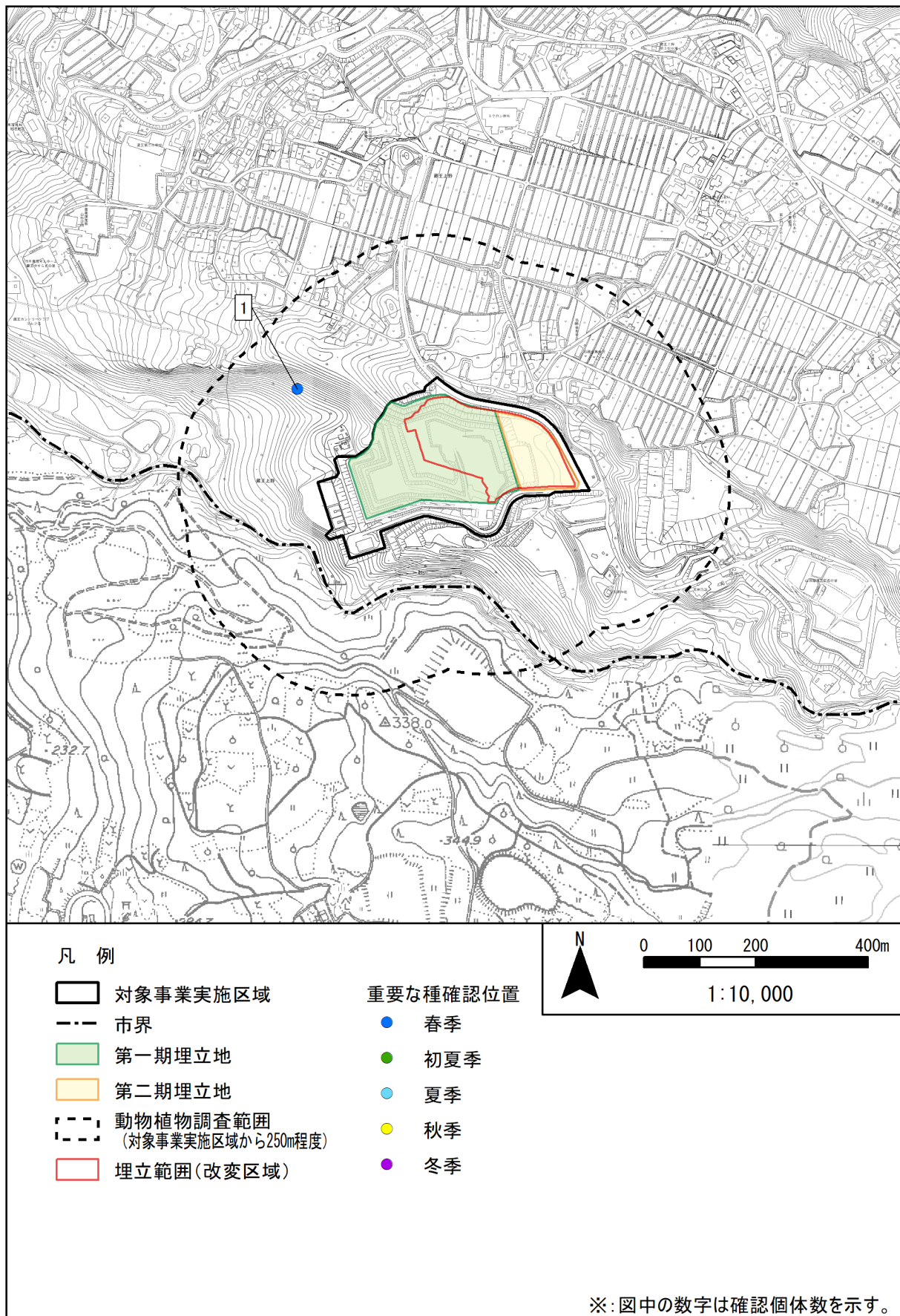


図 10.5-10(7) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（コマドリ）

表 10.5-31(8) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		コルリ
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		Ⅰ：－ Ⅱ：－ Ⅲ：－ Ⅳ：準絶滅危惧 (NT)
分布・一般生態		・日本には夏鳥として渡来し、主に本州中部以北から北海道で繁殖する。ササが茂った低山から亜高山の落葉広葉樹林で繁殖する。下藪の中を潜行することが多い。 ・藪を伝いながら昆虫類やクモ類を捕まえる。雛には鱗翅類の幼虫、アリ、アブ、ハバチの幼虫、クモ、イシムカデ、カタツムリ、ミミズなどの動物質を与える。
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内 確認なし。
		対象事業実施区域外 春季調査時に 1 地点で 1 個体確認した。確認環境は樹林であった。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

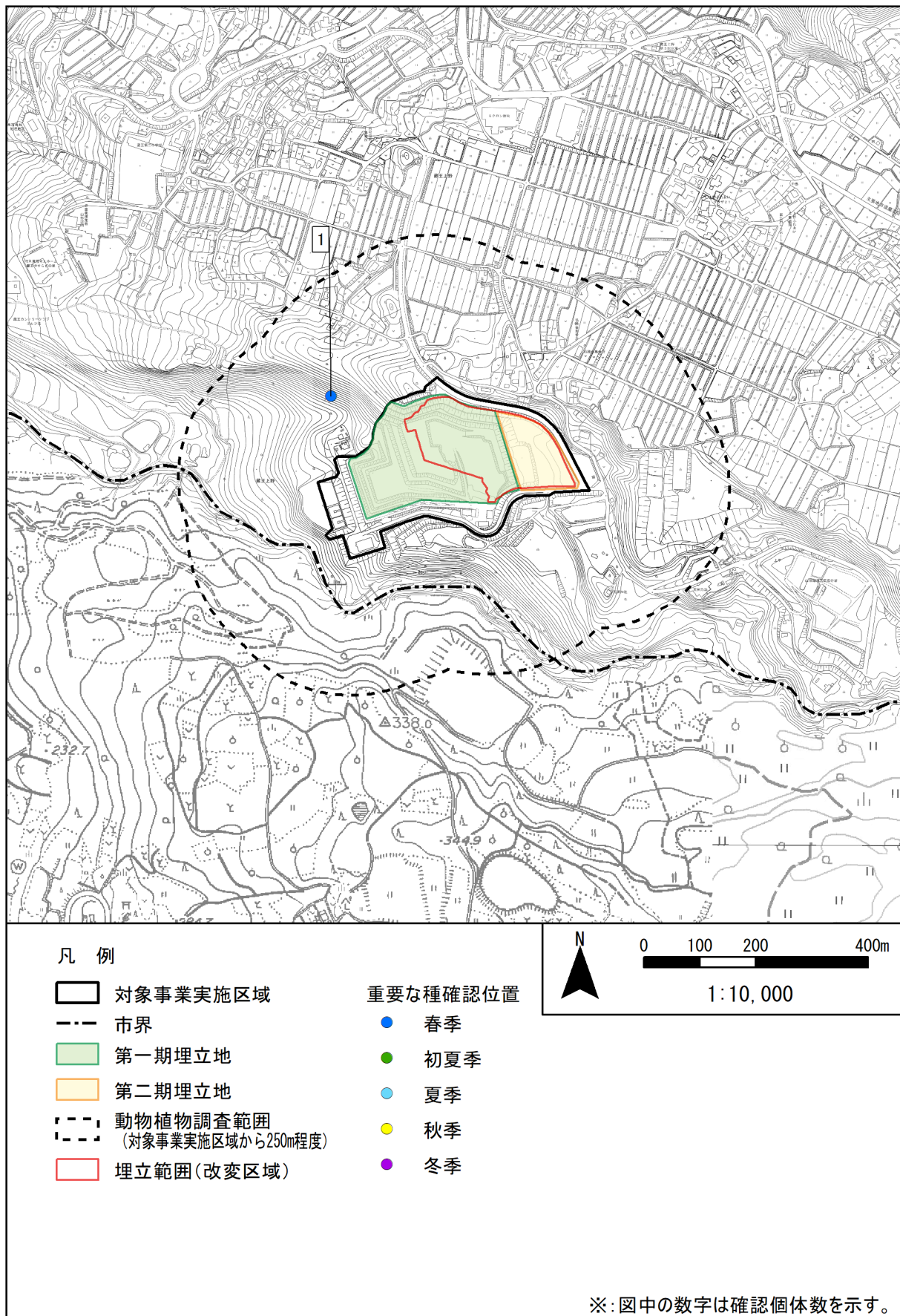


図 10.5-10(8) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (コルリ)

表 10.5-31(9) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		オオルリ	
重要な種の選定基準		Ⅰ：－ Ⅱ：－ Ⅲ：－ Ⅳ：準絶滅危惧 (NT)	
重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。			
分布・一般生態		・日本では夏鳥として渡来し、北海道から九州までの丘陵、山地で繁殖する。 ・主に谷沿いの林に生息し、枝先から谷間の上空に飛び出し、フライングキャッチで飛んでいる昆虫類を捕食する。	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	春季調査時に 1 地点で 1 個体確認した。確認環境は樹林であった。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	

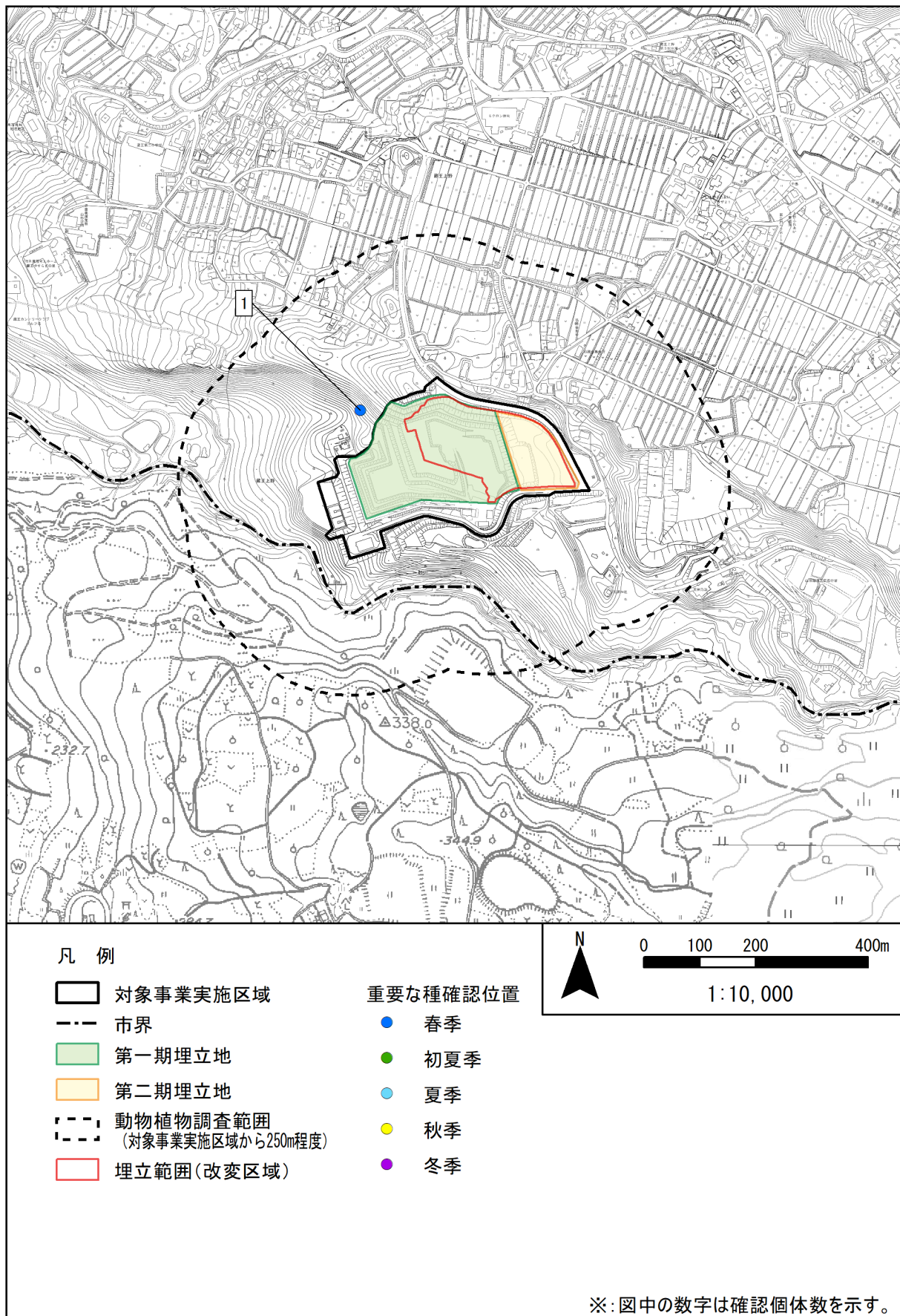


図 10.5-10(9) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（オオルリ）

表 10.5-31(10) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		セグロセキレイ
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		Ⅰ：－ Ⅱ：－ Ⅲ：－ Ⅳ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)
分布・一般生態		・日本だけに分布する。北海道、本州、四国、九州で留鳥として繁殖する。低地や低山帯、ときには亜高山帯の河川とその周辺にすむ。川の周辺の水田や集落、市街地でも見られる。 ・水辺近くや湿った冬の水田の地上などを歩いて餌をついばむほか、河原の水辺の石の上から飛んできた昆虫類を狙い、フライングキャッチなどで捕まえる。トビケラ類、カワゲラ類などの昆虫類を主食とするが、種子なども食べる。
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内 春季調査時に1地点1個体、夏季調査時に3地点で3個体、秋季調査時に1地点で1個体確認した。確認環境は人工裸地や乾性草地であった。
		対象事業実施区域外 春季調査時に1地点1個体確認した。確認環境は樹林であった。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である河川沿いの河原環境等は改変されない。 ・工事の実施により、生息が確認された対象事業実施区域内の造成地環境が約47.5%改変されるが、本種の主な生息環境である河原環境や水田等の耕作地環境は周辺に広く分布している。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である河川沿いの河原環境等は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・土地又は工作物の存在・供用により、生息が確認された対象事業実施区域内の造成地環境の約47.5%で埋立作業が実施されるが、本種の主な生息環境である河原環境や水田等の耕作地環境は周辺に広く分布している。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

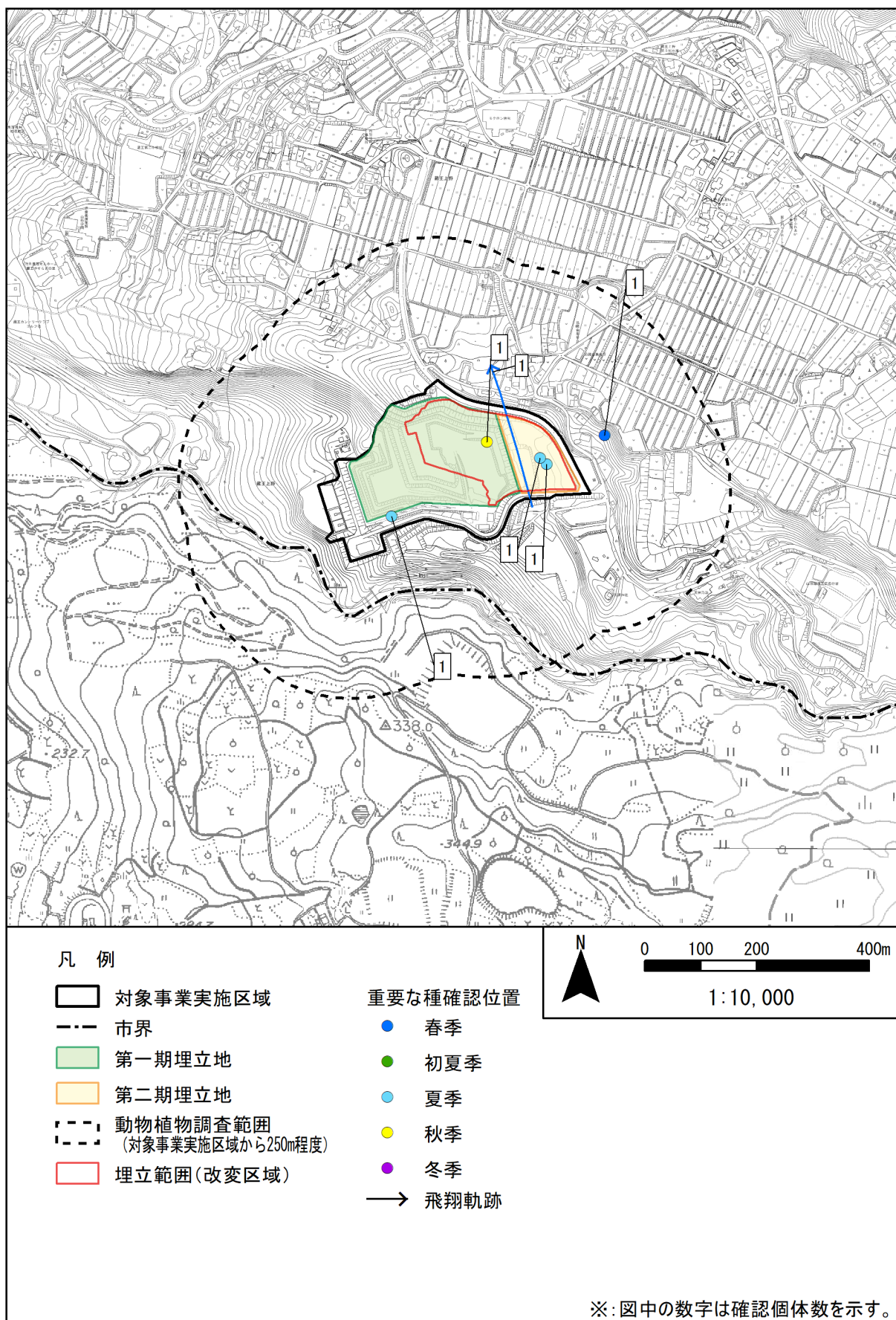


図 10.5-10(10) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（セグロセキレイ）

3) 猛禽類

猛禽類の重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響の予測結果は、表 10.5-32 及び図 10.5-11 に示すとおりである。

表 10.5-32(1) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ミサゴ	
重要な種の選定基準		I：－ II：－ III：準絶滅危惧 (NT) IV：絶滅危惧 II 類 (VU)	
重要な種の選定基準は、前掲表 10.5-4 に対応する。			
分布・一般生態		・主に海岸や湖沼、大河川などの水辺に周年生息するが、冬季は暖地へ移動するものも多い。海岸や山中で繁殖し、大岩の頂や樹冠部に営巣する。海上の灯台や高圧線の鉄塔など人工物に営巣する例も知られている。 ・ボラやスズキ、トビウオなどの魚類を餌とし、水面近くに浮上した魚を、ダイビングしたりすくいとったりして捕らえる。	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	猛禽類調査の 5 月、6 月にそれぞれ 1 例を確認した。繁殖に係る行動や調査範囲内での営巣（繁殖）は確認されなかった。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の営巣地や河川等の餌場環境は改変されない。 ・対象事業実施区域周辺において営巣（繁殖）が確認されていないことから、工事の実施に伴う騒音の影響は生じないと予測される。 ・確認例数が少ないことから、対象事業実施区域周辺の利用は一時的な利用であると考えられる。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の営巣地や河川等の餌場環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・対象事業実施区域周辺において営巣（繁殖）が確認されていないことから、土地又は工作物の存在・供用に伴う騒音の影響は生じないと予測される。 ・確認例数が少ないことから、対象事業実施区域周辺の利用は一時的な利用であると考えられる。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

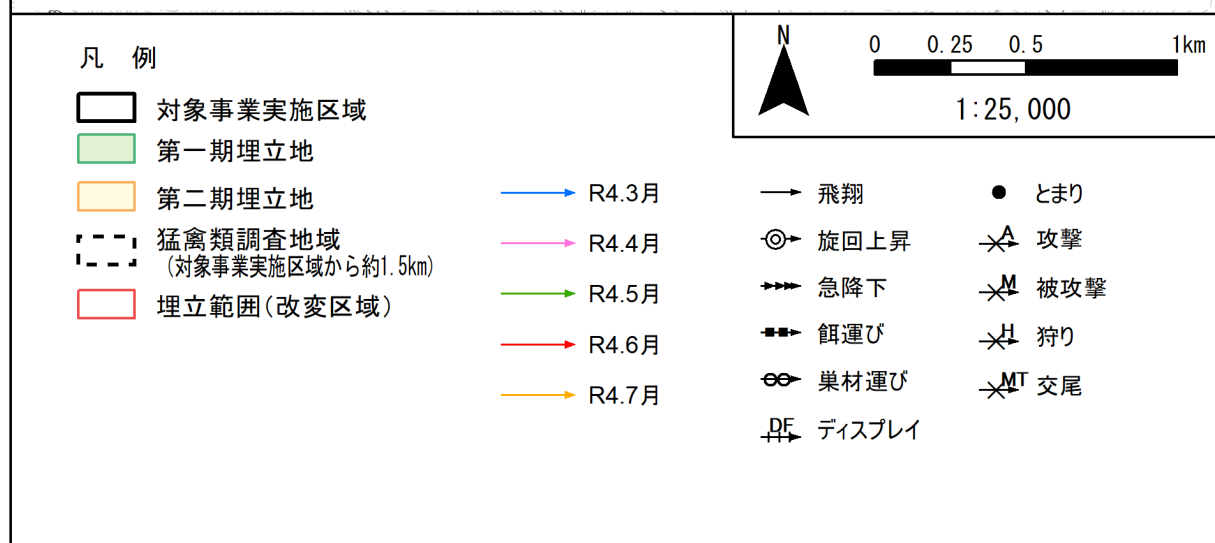


図 10.5-11(1) 重要な種の飛翔図と改変区域の重ね合わせ図（ミサゴ）

表 10.5-32(2) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ハチクマ	
重要な種の選定基準		I : ー II : ー III : 準絶滅危惧 (NT) IV : 絶滅危惧 I B 類 (EN)	
重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。			
分布・一般生態		・本州以北の低山から山地帯の森林に夏鳥として渡来する。渡りの時には小群を形成し、市街地の上空にも現れる。 ・昆虫類、ネズミ類、トカゲ類、カエルなどを捕食するが、ハチの幼虫や蛹を好んで食べる。クロスズメバチなどのジバチ類を特に好む。	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	猛禽類調査の5月に2例、6月に4例を確認した。ディスプレイ飛翔が1例確認されたが調査範囲内での営巣（繁殖）は確認されなかった。
影響 予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の営巣地や餌場環境となる樹林環境は改変されない。 ・対象事業実施区域周辺において営巣（繁殖）が確認されていないことから、工事の実施に伴う騒音の影響は生じないと予測される。 ・確認例数が少ないことから、対象事業実施区域周辺の利用は一時的な利用であると考えられる。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の営巣地や餌場環境となる樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・対象事業実施区域周辺において営巣（繁殖）が確認されていないことから、土地又は工作物の存在・供用に伴う騒音の影響は生じないと予測される。 ・確認例数が少ないことから、対象事業実施区域周辺の利用は一時的な利用であると考えられる。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

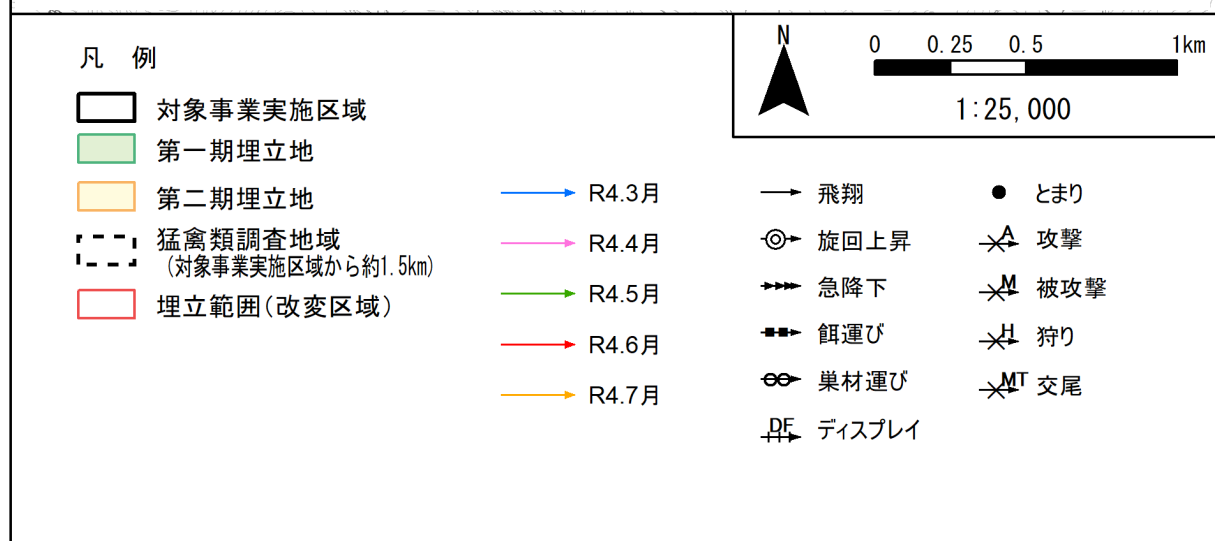


図 10.5-11(2) 重要な種の飛翔図と改変区域の重ね合わせ図（ハチクマ）

表 10.5-32(3) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ハイタカ
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		Ⅰ：－ Ⅱ：－ Ⅲ：準絶滅危惧 (NT) Ⅳ：絶滅危惧ⅠB類 (EN)
分布・一般生態		・日本では本州以北で繁殖する留鳥、冬には少数が暖地に移動する。平地から亜高山帯の林に生息し、林内や林縁、農耕地、草地などで獲物を捕まえる。 ・主にツグミ位までの鳥類を狩るが、ネズミやリス、ヒミズなどを捕まえることもある。
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内 確認なし。
		対象事業実施区域外 猛禽類調査の3月に3例、4月に3例、5月に2例を確認した。繁殖に係る行動や調査範囲内での営巣（繁殖）は確認されなかった。
影響 予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の営巣地となる樹林環境や餌場環境となる林縁や農耕地環境は改変されない。 ・対象事業実施区域周辺において営巣（繁殖）が確認されていないことから、工事の実施に伴う騒音の影響は生じないと予測される。 ・確認例数が少ないことから、対象事業実施区域周辺の利用は一時的な利用であると考えられる。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の営巣地となる樹林環境や餌場環境となる林縁や農耕地環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・対象事業実施区域周辺において営巣（繁殖）が確認されていないことから、土地又は工作物の存在・供用に伴う騒音の影響は生じないと予測される。 ・確認例数が少ないことから、対象事業実施区域周辺の利用は一時的な利用であると考えられる。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

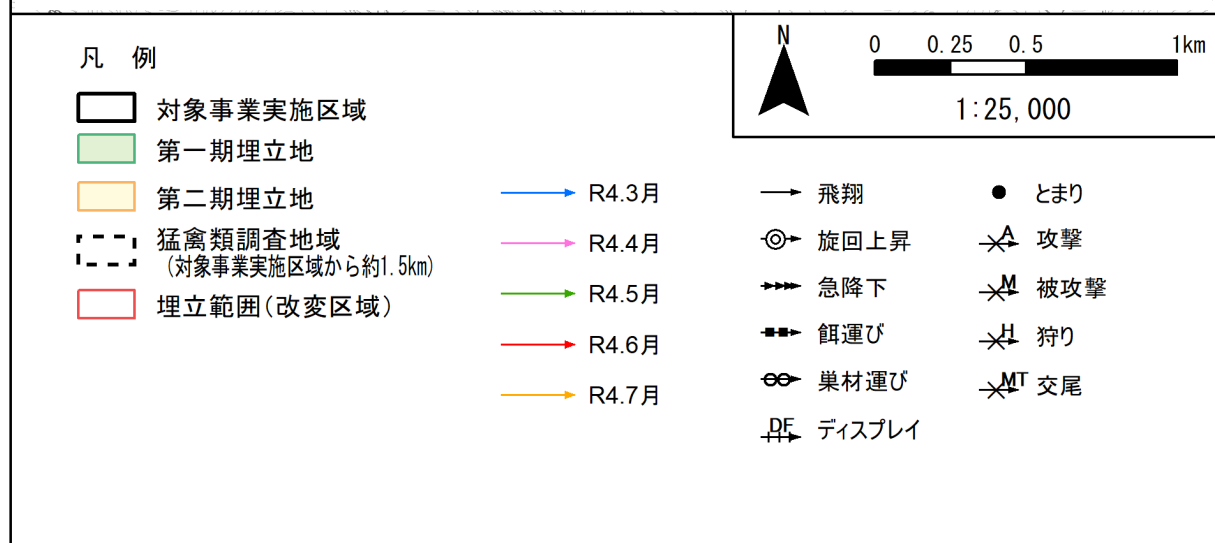


図 10.5-11(3) 重要な種の飛翔図と改変区域の重ね合わせ図（ハイタカ）

表 10.5-32(4) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		オオタカ
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		Ⅰ：－ Ⅱ：－ Ⅲ：準絶滅危惧 (NT) Ⅳ：絶滅危惧ⅠB類 (EN)
分布・一般生態		・四国の一部および本州、北海道の広い範囲で繁殖するが、繁殖記録は東日本で多く、西日本では少ない。留鳥として年中生息するが、秋から冬になると高地や山地のものの一部は低地や暖地に移動する。 ・キジ、ヤマドリといった中型からやや大型の鳥類が多いが、ヒヨドリやツグミ類等のやや小型の鳥類、リスやウサギなどの哺乳類なども食べる。
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内 一般鳥類調査の春季調査時に 1 例確認した。確認環境は対象事業実施区域上空であった。
		対象事業実施区域外 一般鳥類調査の秋季調査時に 1 例確認した。確認環境は樹林であった。 猛禽類調査の 3 月に 1 例、6 月に 2 例を確認した。繁殖に係る行動や調査範囲内での営巣（繁殖）は確認されなかった。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の営巣地となる樹林環境や餌場環境となる林縁環境は改変されない。 ・対象事業実施区域周辺において営巣（繁殖）が確認されていないことから、工事の実施に伴う騒音の影響は生じないと予測される。 ・確認例数が少ないことから、対象事業実施区域周辺の利用は一時的な利用であると考えられる。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の営巣地となる樹林環境や餌場環境となる林縁環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・対象事業実施区域周辺において営巣（繁殖）が確認されていないことから、土地又は工作物の存在・供用に伴う騒音の影響は生じないと予測される。 ・確認例数が少ないことから、対象事業実施区域周辺の利用は一時的な利用であると考えられる。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

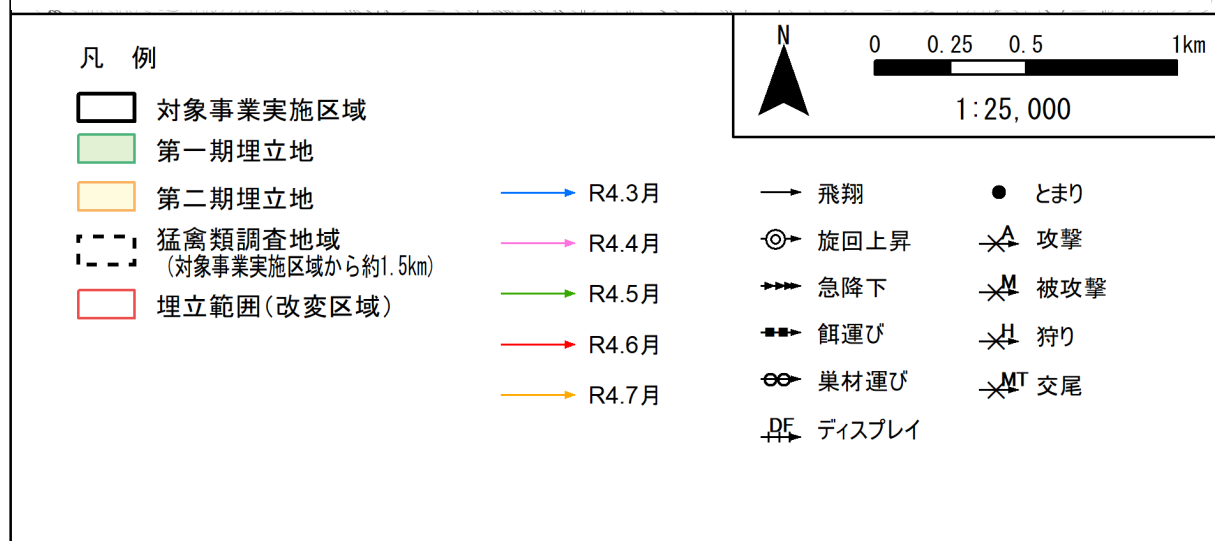


図 10.5-11(4) 重要な種の飛翔図と改変区域の重ね合わせ図(オオタカ)

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

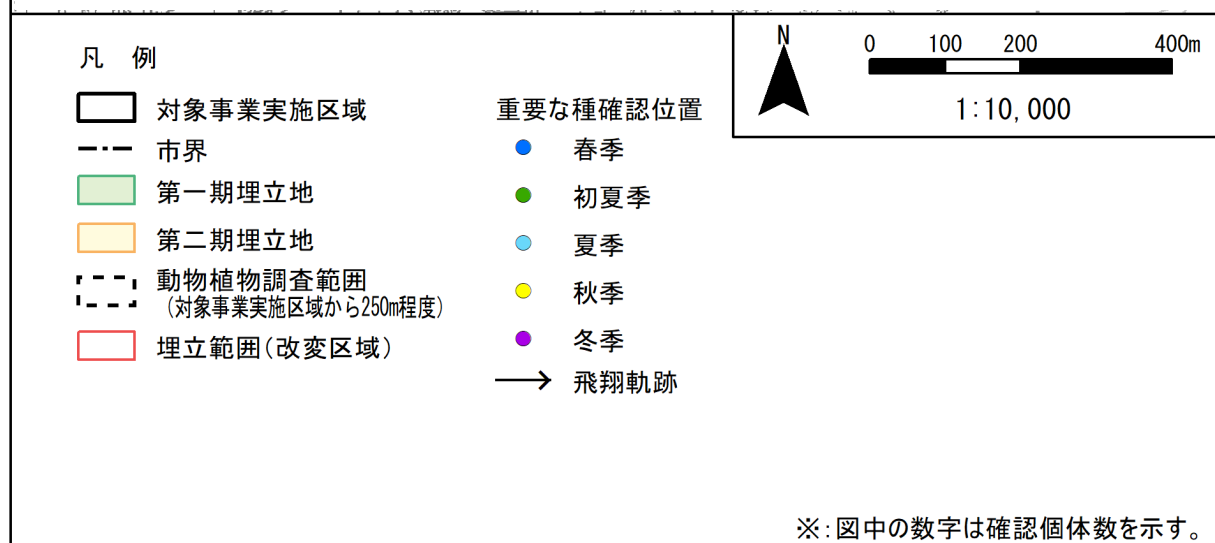


図 10.5-11(5) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（オオタカ（一般鳥類調査時））

表 10.5-32(5) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		サシバ	
重要な種の選定基準		I : ー II : ー III : 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) IV : 絶滅危惧ⅠB類 (EN)	
重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。			
分布・一般生態		・日本には夏鳥として3～4月ごろ渡来し、9～10月ごろ渡去する。九州から青森県にかけて繁殖する。低山から丘陵の森林に生息し、周辺の水田などの開けた環境で狩りをする。 ・ヘビを好んで食べるほか、ネズミ、モグラ、小鳥、カエルや、バッタなどの昆虫類もよく食べる。秋の渡りの時期には昆虫類が主食となる。木の上から地上を見張り、獲物を見つけると飛び下りて足指で捕える。	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	猛禽類調査の5月、7月にそれぞれ1例を確認した。繁殖に係る行動や調査範囲内での営巣（繁殖）は確認されなかった。
影響 予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の営巣地となる樹林環境や餌場環境となる水田環境は改変されない。 ・対象事業実施区域周辺において営巣（繁殖）が確認されていないことから、工事の実施に伴う騒音の影響は生じないと予測される。 ・確認例数が少ないことから、対象事業実施区域周辺の利用は一時的な利用であると考えられる。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の営巣地となる樹林環境や餌場環境となる水田環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・対象事業実施区域周辺において営巣（繁殖）が確認されていないことから、土地又は工作物の存在・供用に伴う騒音の影響は生じないと予測される。 ・確認例数が少ないことから、対象事業実施区域周辺の利用は一時的な利用であると考えられる。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

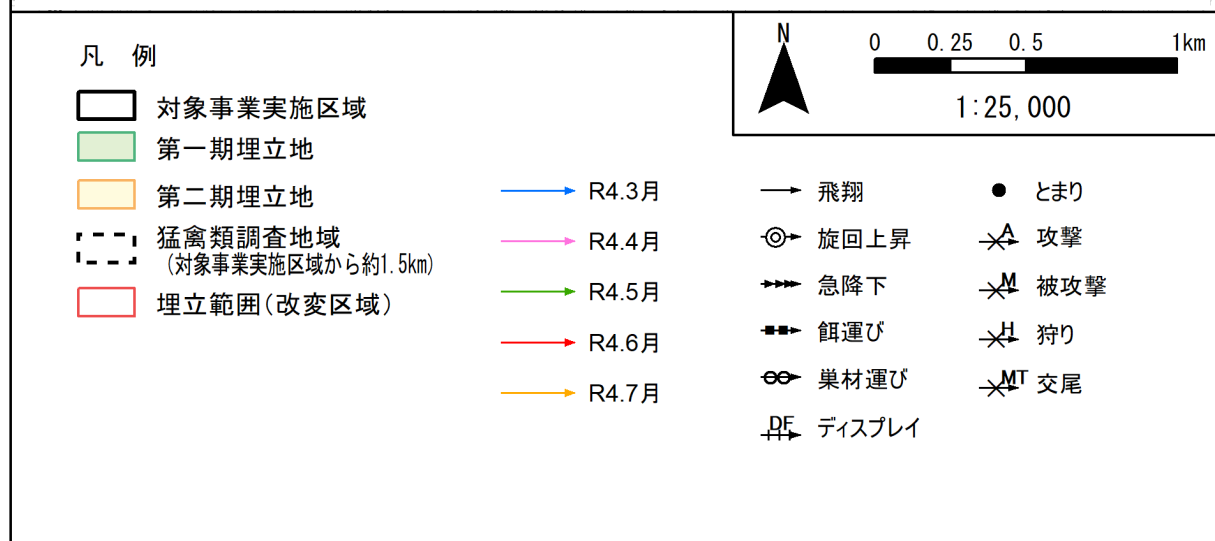


図 10.5-11(6) 重要な種の飛翔図と改変区域の重ね合わせ図(サシバ)

表 10.5-32(6) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		フクロウ	
重要な種の選定基準		I：－ II：－ III：－ IV：絶滅危惧 I B 類 (EN)	
重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。			
分布・一般生態		・日本では北海道、本州、四国、九州にかけて見られる留鳥である。低地、低山帯から亜高山帯にかけてのいろいろなタイプの樹林にすみ、特に大きい樹木のある広葉樹林や針広混交林を好む。密に茂った針葉樹林でも見られる。 ・夜行性で林縁や下枝の少ない樹林などで採食する。ネズミなどの小型哺乳類や鳥類などを捕食する。地上の匍匐潜行型のネズミ類やモモンガなど活動時間帯の合うものが多い。	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	猛禽類調査の春季調査時に 2 地点で 3 個体、初夏に 2 地点で 2 個体、夏季に 1 地点で 1 個体確認した。確認環境は樹林であった。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

凡 例

-  対象事業実施区域
-  市界
-  第一期埋立地
-  第二期埋立地
-  動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)
-  埋立範囲(改変区域)

重要な種確認位置

-  春季
-  初夏季
-  夏季
-  秋季
-  冬季



0 100 200 400m

1:10,000

※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-11(7) 重要な種の飛翔図と改変区域の重ね合わせ図 (フクロウ)

4) 爬虫類

爬虫類の重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響の予測結果は、表 10.5-33 及び図 10.5-12 に示すとおりである。

表 10.5-33 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ジムグリ
重要な種の選定基準		I：－ II：－ III：－ IV：情報不足(DD)
重要な種の選定基準は、前掲表 10.5-4 に対応する。		
分布・一般生態		・北海道、本州、四国、九州および周辺の島嶼に分布する。 ・主に昼行性で、低地から亜高山帯の林の中で見かける。 ・交尾期は4～5月。卵生で、重さ12～21g くらいの卵を3～7個ほど産む。 ・野外食性は主に小型哺乳類からなる。 ・地面によく潜る習性がある。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 秋季調査時に1地点で幼体の死体を1個体確認した。確認環境は造成地であった。
		対象事業実施区域外 早春季調査時に1地点で成体を1個体、秋季調査時に1地点で成体の死体を1個体確認した。確認環境は落葉広葉樹林や道路沿いの草地であった。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。 ・対象事業実施区域内の利用が確認されているため、場内通路において工事関係車両によるロードキルが生じる可能性がある。 以上のことから、生息環境への影響があると予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・対象事業実施区域内の利用が確認されているため、場内通路において廃棄物運搬車両によるロードキルが生じる可能性がある。しかしながら、廃棄物運搬車両の走行台数は現況と同程度であることから、生息環境への影響は変化しないものと予測される。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

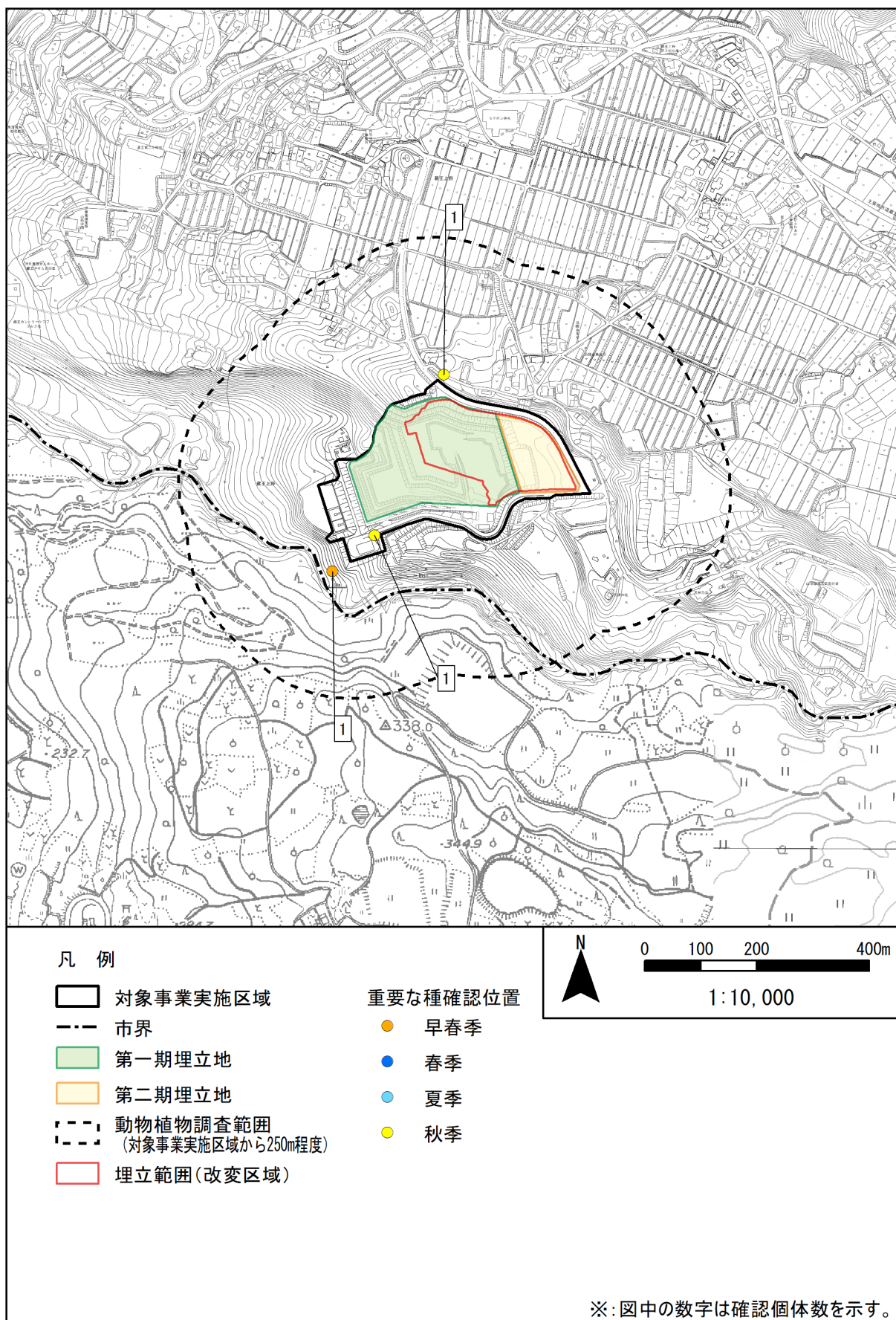


図 10.5-12 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（ジムグリ）

5) 両生類

両生類の重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響の予測結果は、表 10.5-34 及び図 10.5-13 に示すとおりである。

表 10.5-34(1) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		トウホクサンショウウオ	
重要な種の選定基準		I：－ II：－ III：準絶滅危惧 (NT) IV：準絶滅危惧 (NT)	
重要な種の選定基準は、前掲表 10.5-4 に対応する。			
分布・一般生態		・本州の東北地方および新潟県、群馬県、栃木県に広く分布する。 ・低山地に多いが、海岸近くから標高 1,500m の高山帯にも生息する。 ・1～6 月頃に、細い細流のよどみや湧水、浅い沼等で、ゆるい水流のある場所に産卵する。 ・卵のうは曲がったひも状で透明、水底の石や木の枝などに 1 対ずつ産みつけられる。	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	早春季調査時に 2 地点で卵のうを計 19 対確認した。確認環境はスギ林内の水溜りやため池であった。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境や産卵環境である細流や湧水環境は改変されない。 ・確認された産卵環境は、工事関係車両の走行ルートから離れていることから、ロードキルは生じないと予測される。 ・工事の実施に伴い発生する濁水は、産卵が確認された水域には排水しない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境や産卵環境である細流や湧水環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・確認された産卵環境は、廃棄物運搬車両の走行ルートから離れていることから、ロードキルは生じないと予測される。 ・土地又は工作物の存在・供用に伴い発生する浸出水処理施設の排水は、産卵が確認された水域には排水しない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	

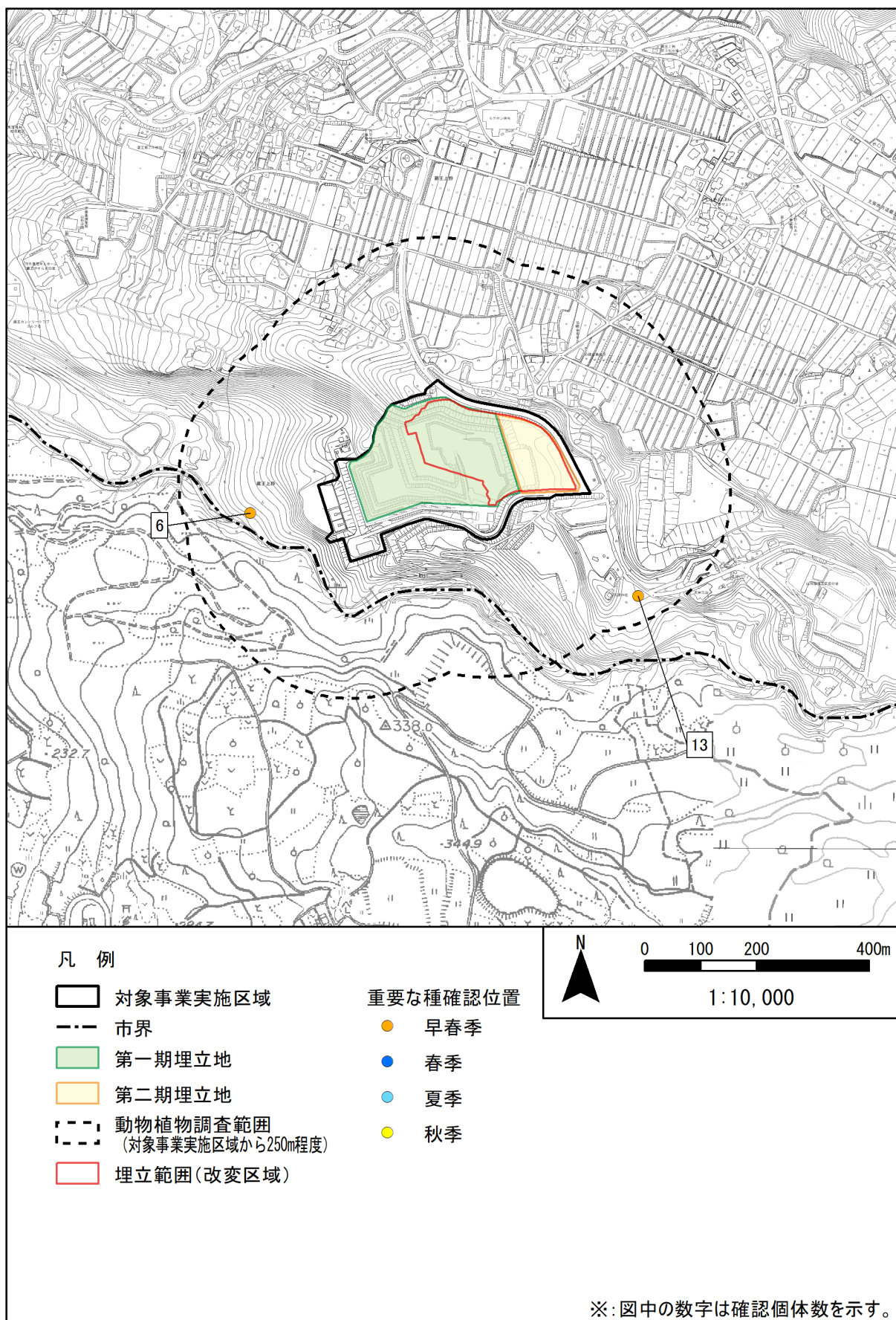


図 10.5-13(1) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（トウホクサンショウウオ）

表 10.5-34(2) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		サンショウウオ属 ・ トウホクサンショウウオ又はクロサンショウウオ
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I：－ II：－ III：準絶滅危惧 (NT) IV：準絶滅危惧 (NT)
分布・一般生態		(トウホクサンショウウオ) ・ 表 10.5-34 (1) を参照。 (クロサンショウウオ) ・ 東北地方、北関東、中部地方北部、福井県北部まで広く分布する。 ・ 海岸近くの平地にも山地にも生息するが、分布の南限に近いところでは高山帯に多い。 ・ 止水性で、比較的水深のある池や水溜りに群をなして産卵する。 ・ 卵のうは紡錘形で大きく、透明な外層と乳白色で不透明な内層でできている。 ・ 幼生は食欲でよく共食いをし、幼生で越冬することもある。
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内 確認なし。
		対象事業実施区域外 早春季調査時に 1 地点で幼生を 10 個体確認した。確認環境はため池であった。
影響 予測	工事の実施	・ 工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境や産卵環境である細流、湧水やため池環境は改変されない。 ・ 確認された産卵環境は、工事関係車両の走行ルートから離れていることから、ロードキルは生じないと予測される。 ・ 工事の実施に伴い発生する濁水は、産卵が確認された水域には排水しない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。
	土地又は工作物の存在・供用	・ 土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境や産卵環境である細流、湧水やため池は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・ 確認された産卵環境は、廃棄物運搬車両の走行ルートから離れていることから、ロードキルは生じないと予測される。 ・ 土地又は工作物の存在・供用に伴い発生する浸出水処理施設の排水は、産卵が確認された水域には排水しない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。

表 10.5-34(3) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		アカハライモリ	
重要な種の選定基準		I : ー II : ー III : 準絶滅危惧 (NT) IV : 準絶滅危惧 (NT)	
重要な種の選定基準は、前掲表 10.5-4 に対応する。			
分布・一般生態		・本州、四国、九州および周辺の島嶼に分布する。 ・低地から山地の水田、池、溪流、溝などに見られる。 ・4～7月頃に、池や水溜りなどの止水の水草に1卵ずつ産卵する。 ・幼生は年内に変態する。 ・非常に貪食で、動物質のものなら種類を選ばず食べる。	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	早春季調査時に1地点で成体を1個体、春季調査時に1地点で成体を2個体確認した。確認環境は休耕田やため池、水田脇の用水路であった。
影響予測	工事の実施	・工事の実施により、本種の主な生息環境である水田やため池環境は改変されない。 ・生息が確認された休耕田やため池は、工事関係車両の走行ルートから離れていることから、ロードキルは生じないと予測される。 ・工事の実施に伴い発生する濁水は、生息が確認された水域には排水しない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	
	土地又は工作物の存在・供用	・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である水田やため池環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。 ・生息が確認された休耕田やため池は、廃棄物運搬車両の走行ルートから離れていることから、ロードキルは生じないと予測される。 ・土地又は工作物の存在・供用に伴い発生する浸出水処理施設の排水は、生息が確認された水域には排水しない。 以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。	

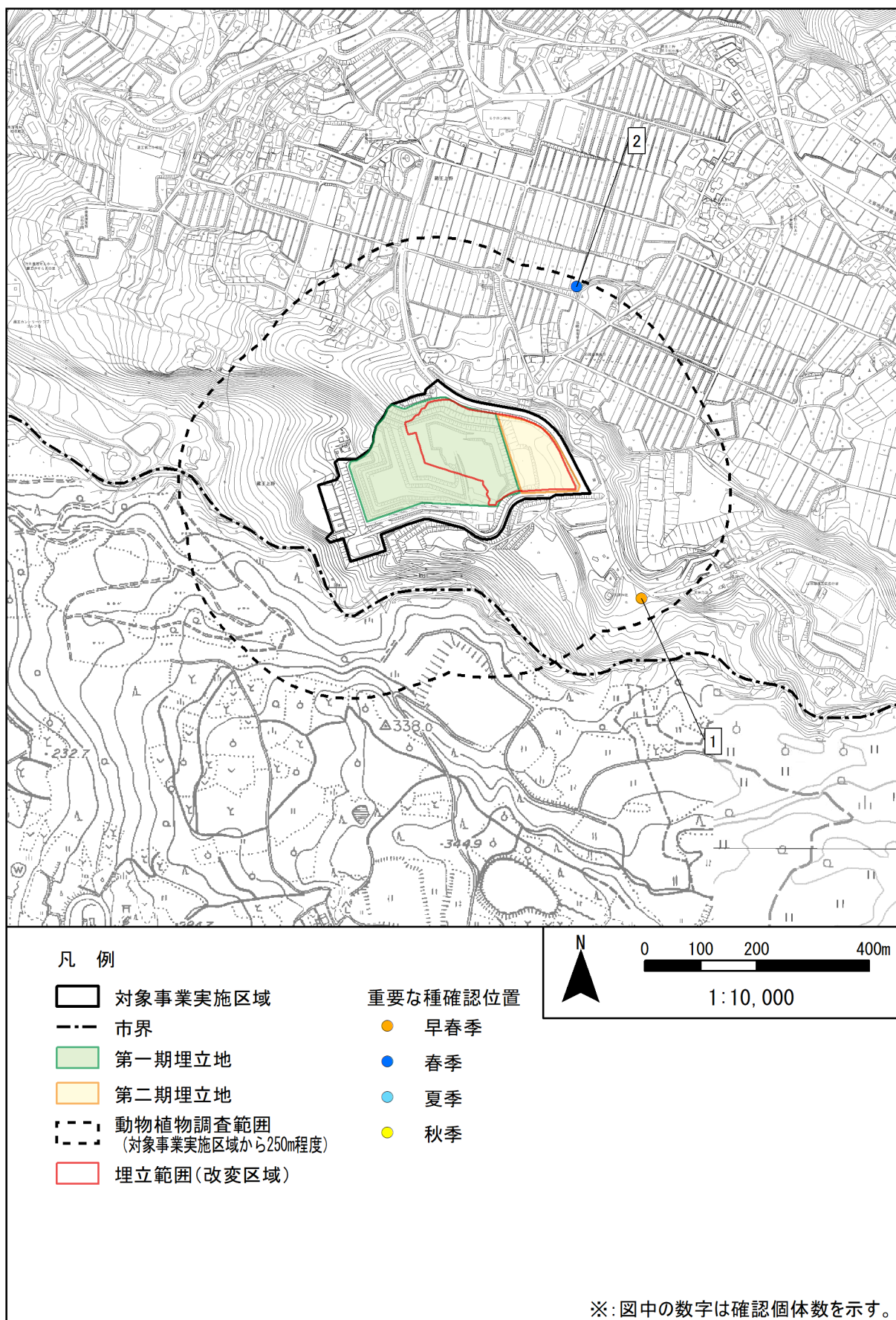


図 10.5-13(3) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図（アカハライモリ）